

会計系資格 スタ→ト講座 全10回

公認会計士講座・財務会計論入門Ⅰ ※「税理士スタート講座」・
「簿記検定3級商簿講義」対応

| オンラインライブ講座 |

| 講義資料 |

担当：由利 隆之

入門Ⅰの学習内容など

Ⅰ. テキストの学習内容・利用方法

1. 本コースの狙い

入門Ⅰでは、簿記を初めて学習する人を対象として、平易な取引を通して簿記一巡の手続をマスターすることを目的としています。したがって、学習に際してはまず個々の取引の処理を覚え、次にそれらを簿記一巡の手続の中で捉えていくことが大切です。なお、入門Ⅰは日商簿記3級の試験範囲を網羅していますので、本コースをマスターすれば日商簿記3級を合格できる内容となっております。

2. テキストとトレーニングの使用法について

- (1) まず、テキストを読んで個々の取引の処理方法をマスターして下さい。理解できたならば、次に、トレーニングに挑戦します。テキストの設例、基本例題は解答・解説を見ながら解いて結構ですが、トレーニングの問題はできる限り独力で解いて下さい。そして、トレーニングで分からない箇所はテキストに戻って復習して下さい。
- (2) トレーニングはテキストの確認と練習のための問題ですが、その中にはテキストの問題よりも少し難しい応用問題があります。しかし、少し考えれば解ける問題となっていますので、頑張って挑戦して下さい。

3. 簿記を初めて学習する方へ

まず、簿記とはどのようなものか、どのような処理を行うか、ということに慣れて下さい。その際に、頭で考えるよりも実際にペンを取って記帳しながら「体で覚える」ことが大切です。また、学習に際しては先入観を持たずに、あるがままをそのまま受け入れるという「素直な学習態度」も必要です。

4. 簿記を少し学習した方へ

頭の中では分かっていると思っていても、実際にペンを取って解いて下さい。そして、仕訳ができたならば「仕訳の意味するところ」を考えて下さい。また、できる限り仕訳をしないで済む方法を見つけて下さい。このようにすることによってスピードアップできます。

本日の内容①

～「学習進度表」について～

学習進度表（入門Ⅰ）①

回数	学習内容	合格テキスト	合格トレーニング	事前復習論点
第1回	テーマ01 簿記の意義	P. 1 ～ P. 23	1－1～1－2	—
	テーマ02 財務諸表と簿記の5要素		2－1～2－2	
	テーマ03 日常の手続き		3－1～3－2	
	①～④ 合計・残高		3－4～3－5	

本日の内容②

～「復習管理表」とは？～

復習管理表（入門Ⅰ）①

回数		～次回講義	～実力テスト	予備欄			
		復習①	復習②	復習③	復習④	復習⑤	復習⑥
第1回	テキスト復習	/	/	/	/	/	/
	合格トレ1－1	/	/	/	/	/	/
	合格トレ1－2	/	/	/	/	/	/
	合格トレ2－1	/	/	/	/	/	/
	合格トレ2－2	/	/	/	/	/	/
	合格トレ3－1	/	/	/	/	/	/
	合格トレ3－2	/	/	/	/	/	/
	合格トレ3－4	/	/	/	/	/	/
	合格トレ3－5	/	/	/	/	/	/

簿記とは？（本日の主な学習内容）

取引

誰の？・・・テキスト P003
取引って？・・・テキスト P010~011

帳簿に記録
(その都度)

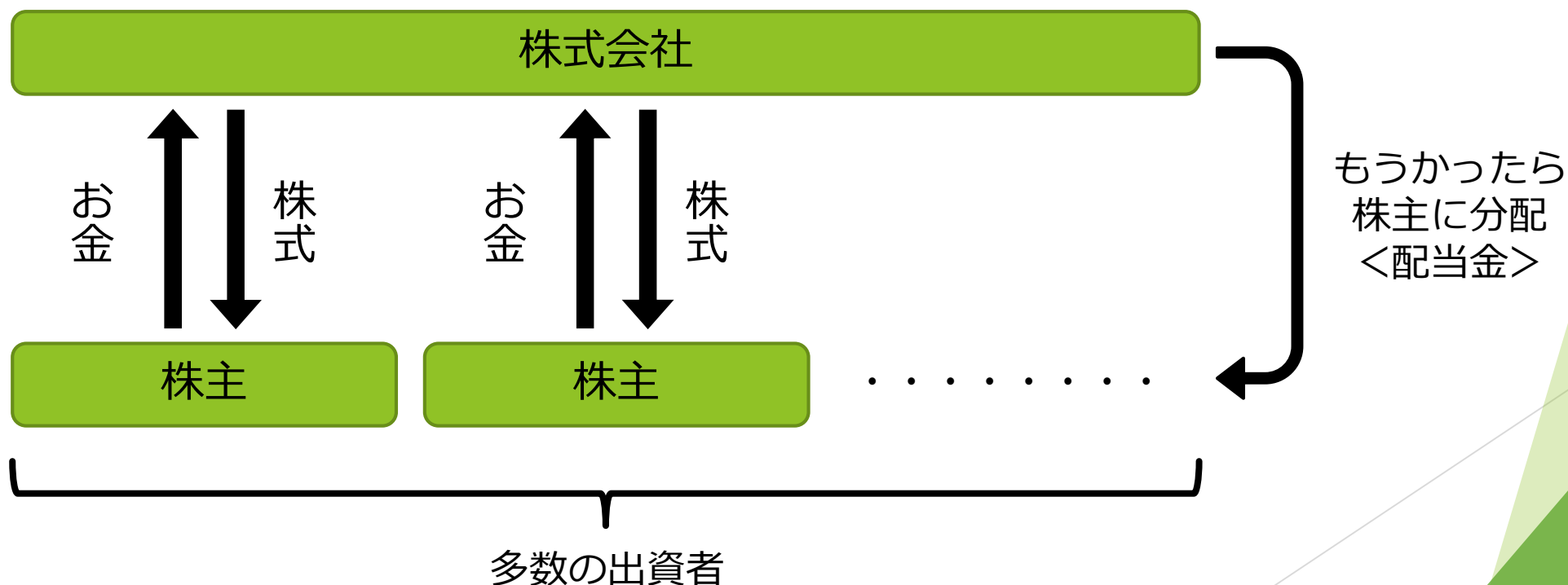
何を記録するの？・・・テキスト P006~008
どんなふうに記録するの？・・・テキスト P012~022

報告書を作成
(一定期間毎)

どんな報告書があるの？・・・テキストP003、006~007
報告書（簿記）の前提条件・・・テキストP004~005

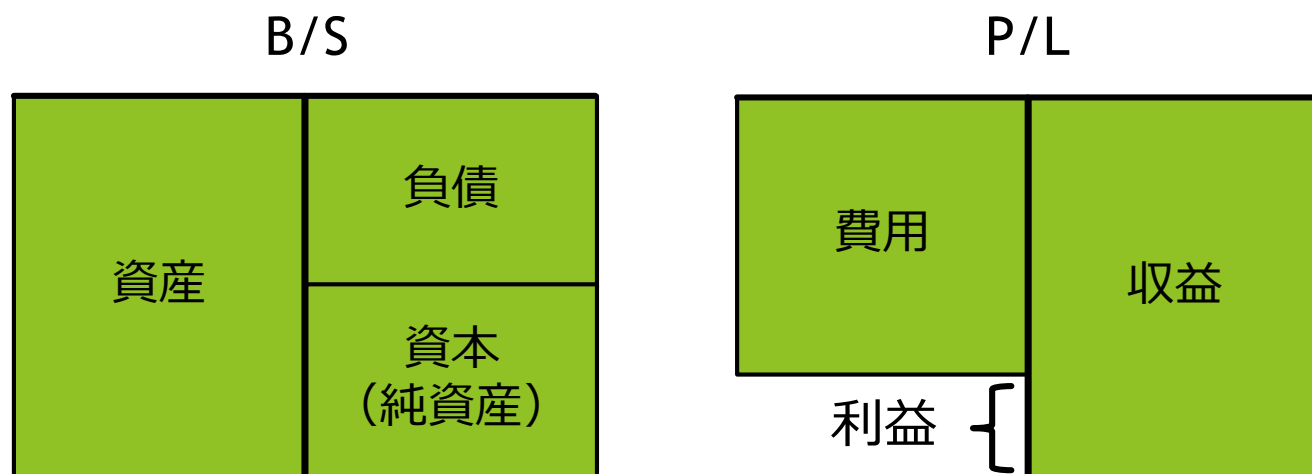
株式会社とは

- ▶ 日商簿記3級では「商品売買業を営む小規模な株式会社」を前提とします。
- ▶ ここでは、簡単に株式会社を説明しておきます。テキストP248参照



財務諸表

- ▶ 財務諸表 (F/S) ⇒ 簿記で作成するいろいろな報告書を総称して財務諸表といいます
- ▶ 財務諸表には、貸借対照表 (B/S) ・ 損益計算書 (P/L) ・ キャッシュ・フロー計算書 (C/S) ・ ・ などいろいろありますが、入門では B/S ・ P/L を学習します
- ▶ 貸借対照表 ・ 損益計算書 ・ 簿記の 5 要素 (テキスト P006~007)



勘定口座への記入

【取引例】

- ① 10月22日に現金（資産）が100円増えた。
- ② 10月22日に借入金（負債）が100円増えた。
- ③ 12月25日に現金（資産）が70円減った。
- ④ 12月25日に借入金（負債）が70円減った。

(借方)		現 金		(貸方)	(借方)		借入金		(貸方)
①→10/22	100	12/25	70←③	④→12/25	70	10/22	100←②		

★増えたときにどちらに記入するかは、B/S、P/Lと関連付けて覚える！

取引の二面性について（その1）

例 1）10月22日に銀行から現金100円を借り入れた。

- ①借りました分だけ手許の現金（資産）が100円増える。
- ②借りました分は返済しないといけないので、
後で返済する義務である借入金（負債）が100円増える。

例 2）12月25日に銀行に借入金70円を返済した。

- ①銀行に払った分だけ現金（資産）が70円減る。
- ②返済した分だけ、後で返済する義務である借入金（負債）70円が減る。

例 3）1月15日に土地を購入して50円を支払った。

- ①払った分だけ現金（資産）50円が減る。
- ②50円払って取得したので
50円の価値がある（と考える）土地（資産）が増える。

取引の二面性について（その2）

先ほどの【取引例1】について、勘定口座への記入を考えてみる。

- ①現金が100円増える⇒「現金」勘定の借方に100円を記入する必要あり。
- ②借入金が100円増える⇒「借入金」勘定の貸方に100円を記入する必要あり



(借方)	現 金	(貸方)	(借方)	借入金	(貸方)
①→10/22	100			10/22	100 ←②

★何かの勘定口座の「借方」に記入される要素と
何かの勘定口座の「貸方」に記入される要素がありますね！

「仕訳」とは？

先ほどの【取引例 1】の説明を簿記では、「仕訳」という形で記録しておきます。

- ①現金が100円増える ⇒ 「現金」勘定の借方に100円を記入する必要あり。
- ②借入金が増える ⇒ 「借入金」勘定の貸方に100円を記入する必要あり。

10/22	(現金)	100	(借入金)	100
-------	------	-----	-------	-----



①の内容

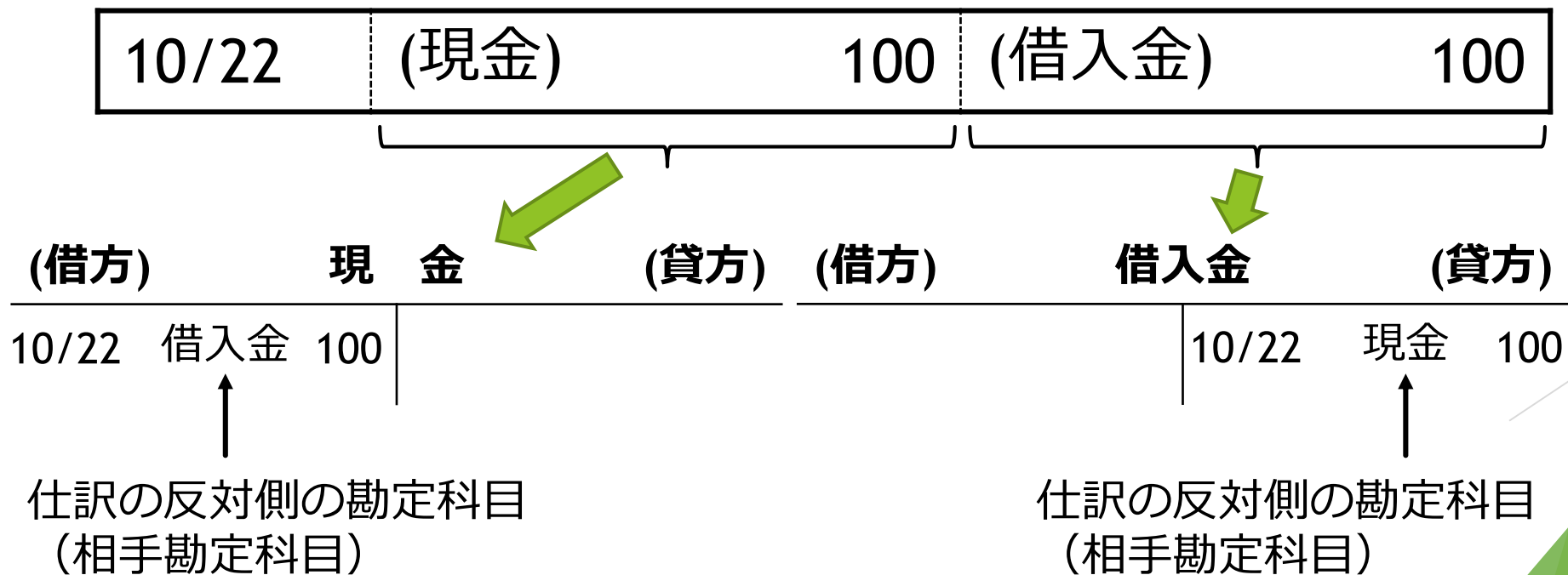


②の内容

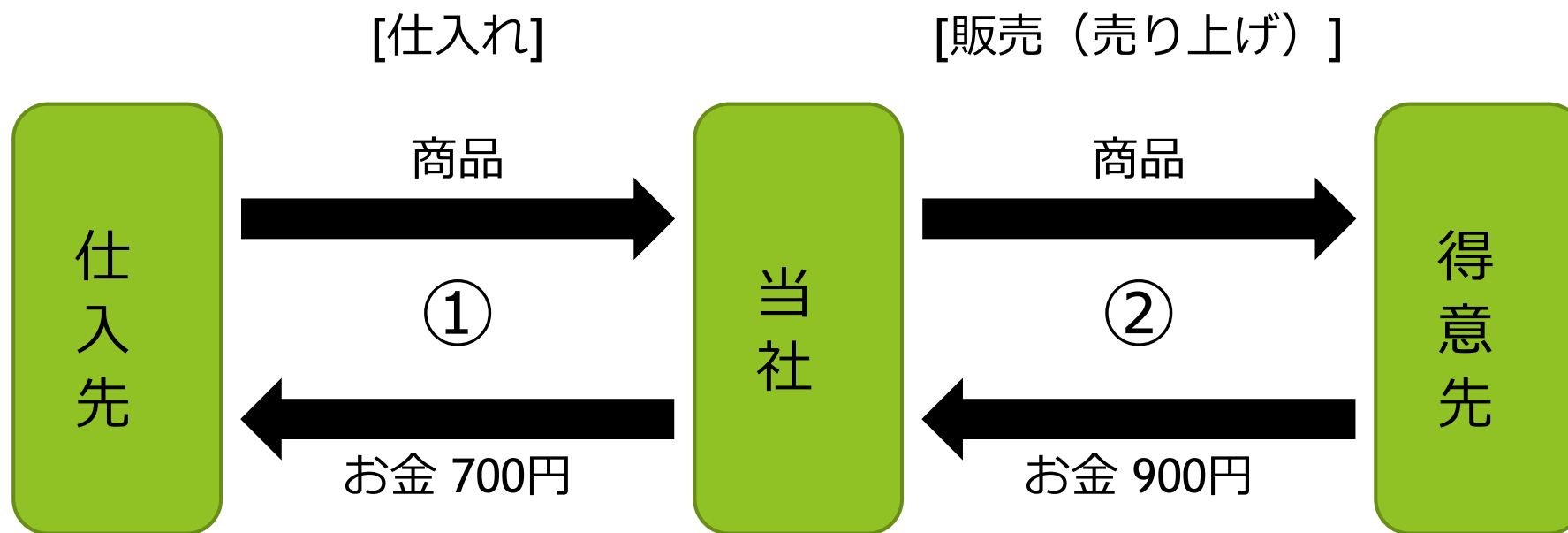
「転記」とは？

実は、簿記では取引があるとはじめに仕訳を行い、その仕訳に基づいて勘定口座に記入します。仕訳に基づいて勘定口座に記入する（書き移す）ことを「転記」といいます。

さきほどの【取引例 1】の場合



商品売買について（商品売買の概要）



商品売買の記録方法（その1）

さきほどの商品売買取引についての記録方法の一つを示します。

【売上原価対立法】

① 仕入れ：対価を払って、商品（資産）を手に入れる。

(商品)	700	(現金)	700
------	-----	------	-----

② 販売：商品を販売することで対価を得る。一方で、商品を渡してしまうから商品（資産）が減り、これは販売のための犠牲（費用）と考える。

(現金)	900	(売上)	900
(売上原価)	700	(商品)	700

★ 販売してしまうと、商品はなくなってしまい、費用に変わる。

この方法は、①の仕入れ時の処理がわかりやすいので紹介しましたが、しばらくは次に示す方法（三分法）で覚えてください！

商品売買の記録方法（その2）

さきほどの商品売買取引について、もう一つの記録方法を示します。
こちらをしっかりと覚えてください。

【三分法】

①仕入れ：対価を払って、商品（資産）を手に入れますが、近い将来販売することで費用に変わるため、仕入（費用）として記録しておく。

(仕入)	700	(現金)	700
------	-----	------	-----

② 販売：商品を販売することで対価を得る。一方で、商品を渡してしまうから商品（資産）が減りますが①で仕入（費用）としているため、ここでは特に仕訳はしない。

(現金)	900	(売上)	900
------	-----	------	-----

★この方法については、後日もう少し丁寧に学習します。